

教育委員会・社会文教常任委員会懇談会実施結果報告書

日 時	平成27年10月29日(木) 午前10時00分から午前12時00分まで
場 所	役場第3・4委員会室(参加者数12人)
出 席 者	山ノ内町教育委員会 佐々木正明教育長・村上温教育委員・小野澤昭三教育委員・ 松本真紀子教育委員、堀米ひろみ教育委員、渡辺千春教育次長 社会文教常任委員会 渡辺正男委員長・小林民夫副委員長・山本光俊委員・ 望月貞明委員・児玉信治委員・山本良一委員
議員役割分担	総括責任者 渡辺正男委員長 司会進行 渡辺正男委員長 記録者 小林民夫副委員長 (出席議員) 渡辺正男・小林民夫・山本光俊・望月貞明・ 児玉信治・山本良一
次第(担当者)	1. 開 会 2. あいさつ (1)社会文教常任委員長 (2)教育長 3. 自己紹介 4. 懇談事項 (1)小学校統廃合について (2)いじめ・不登校の実態について (3)小中学校の学力について (4)小中一貫教育について (5)子ども議会について (6)その他 5. 閉 会
主な質疑内容・ 意見提言	(1)小学校統廃合について ・ 議員から、平成(以下Hと略す)34年の4小統合の北信ローカル記事について「いつ決まったのか」「議会で知らぬのになぜ報道されたのか」と質問。 ・ 教育長は「総合教育会議」は公開で、報道を控えてほしいと言えなかったと説明。これを発端に統合への疑問と応答が続いた。ただし、H29年の西・北小の統合には異論なし。 以下に社文委員からの意見と教委からの応答の要領を記す。 (社会文教常任委員) ○ 1校への統合を H34 年とする結論はもう少し様子を見て決

めるべきだ。地区懇談会の賛意は地区の総意でない。今の保護者だけの賛意だ。

- 具体的な町の教育ヴィジョンも出ていないのにスケジュールが先行している。北+西、東、南の3校と統合後の1校でどんな差異やメリットがあるか不明だ。
- H33年の小・中学校の生徒数は600人という。今の敷地で小・中のふたつは無理だ。例えばプールとかPTA集会の際の駐車場はどうなる。今の施設でやって行けるという生徒数になるまで待つべきでないか。スクールバスも大変だ。

(教育委員会)

- H34年統合の結論再考については一存では決めかねる。
- 2クラス以上でのクラス替えや担任同士の協力・連携の利点を認める声も多い。閉鎖的な教育環境でのいじめがあれば悲劇だ。小さい学級は良くない。先生の力も単独でない方がよい。
- 全町的に理解得たと思う。物事は切羽詰まってからでは良くない。北部ではPTAから早く統合せよの突き上げがあった。H34年での統合を進めよ。
- 子は環境で育つというので保護者はいつどうなるという雰囲気さだ。中学から私立へ行くとか人数が少ないなら中野市の学校へ通わせるという人もいる。議員さんは是非、若い保護者と話して欲しい。
- H34に一校統合に賛否半々の気持ちだ。困ってから計画すべしの意見もあるがH34年目途なので毎年、課題として話し合っていけばどうか。

(2)いじめ・不登校の実態について

教育長：弱者が強者に一方的、長期にわたり心身の苦痛を受けるが以前のいじめ定義だった。今は精神的肉体的な苦痛を感じるなら誰でもいじめとする。山ノ内では小学校で2件、中学で2件報告あった。不登校はかつて30数件と多い時期があった。県より加配があり現在、小学で0件、中学で1人だ。それもほとんど来ないシャットアウトの状態ではない。

(3)小・中学校の学力について

教育長：数・国・理科の全国統一テストがあった。順位、点数を述べることは控えたい。学力状況を各校で検討。学力向上委員会で学校指導、自らの問題発見、自覚・解決・達成感まで自力で持って行く。

議員：学力調査の結果についての感想を求める。

教育長：学力以外の点で課題が多い。

	<p>(4)小中一貫教育について 教育長：適正規模にもよるがまだ良く分らないこともある。1～9学年までの節というか区切りに迷う。カリキュラムの組み方にメリットはある。小中授業の直結などの小中連携は推進したい。</p> <p>(5)子ども議会について 教育長：先ず子どもの意見を聞く。関心を持って取り組みたい。今から準備すればH28年中には可能と思う。 委員長：生徒の親世代の投票率低いので保護者に見せたい。テレビ中継、議場と傍聴者に十分な広さの会場も要る。</p> <ul style="list-style-type: none"> この後、学校と議会の双方に余裕ある時期として11月が妥当となった。教育委員会内部での検討を依頼し協力を求めた。 <p><問題となった重要事項></p> <ul style="list-style-type: none"> H28年の北小と西小の統合は教委の案に社会文教委員会側より異論はなかった。しかしながらH34年の一校への統合には社会文教委員会の渡辺正男委員長、児玉信治委員、山本良一委員より異論が出ている。「H34年という統合の期限を更に慎重審議のうえ再検討されたし。」という意見である。
<p>主な意見提言</p>	
<p>その他反省事項等</p>	